

厚生労働科学研究費補助金
(難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患等実用化研究事業
(免疫アレルギー疾患等実用化等研究事業 免疫アレルギー疾患実用化研究分野)))
分担研究報告書

危険因子を同定する検診制度導入によるリウマチ制圧プロジェクト (三重地区)

研究分担者 若林 弘樹 三重大学医学部附属病院 整形外科 講師
研究協力者 須藤 啓広 三重大学医学部附属病院 整形外科 教授

研究要旨 : 抗体スクリーニング検査による関節リウマチ(RA)患者の早期発見の有無、および抗体陽性者の予後向上の有無の検討が本研究の目的である。三重県内の自治体および当科における健康診断にて、抗CCP抗体および/またはリウマトイド因子検査を行い、陽性者には専門機関への受診を勧める。定期的フォローアップを原則として行い、その後のRA発症の有無を追跡し、早期診断・早期治療に務め、抗体スクリーニング検査の有用性および抗体陽性者の予後向上の有無について検討する。

A. 研究目的

抗体スクリーニング検査による関節リウマチ(RA)患者の早期発見の有無、および抗体陽性者の予後向上の有無の検討。

B. 研究方法

平成 25 年度旧宮川村運動器検診受診、および平成 25-26 年度志摩市 20 歳の健診受診で希望者に抗 CCP 抗体およびリウマトイド因子(RF)を追加で測定した。

(倫理面への配慮)

インフォームドコンセントを徹底し、対象者・対象機関が同定されないようにする必要がある場合は、匿名化により対応した。調査にあたり、「臨床研究に関する倫理指針」を遵守した。

C. 研究結果

運動器検診受診者 220 人中(平均年齢 74.4 歳 : 高齢コホート)、抗 CCP 抗体陽性者は 2 人、RF 陽性者は 14 人であった。20 歳の健診受診者は 303 人中 (平均年齢 25.6 歳 : 成人コホート)、抗 CCP 抗体陽性者は 1 人、RF 陽性者は 7 人であった。

D. 考察

スクリーニングによる抗 CCP 抗体陽性者は高

齢コホート 0.9%、成人コホート 0.3%であり、Fisher 検定では有意な発現の差はみられなかった。RF に関しては高齢コホート 6.9%、成人コホート 2.3%であり、有意に高齢群の方が陽性率が高く($p<0.05$)、これまでの報告と同様の傾向がみられた。抗 CCP 抗体および RF 陽性者の follow による早期診断および予後向上の有無について調査していく予定である。本研究は「危険因子を同定する検診制度導入によるリウマチ制圧プロジェクト」の分担研究であり、三重地区のデータとして収集される。

E. 結論

抗体スクリーニング検査により抗 CCP 抗体陽性者は 0.3-0.9%、RF 陽性者は 2.3-6.9%であった。抗 CCP 抗体の陽性率は今回の検討では年齢による発現差はみられなかった。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的所有権の取得状況

該当なし